

秋

授業紹介 -教育の現場-

学生の課外活動&サークル紹介 Enjoy! 学生ライフ

注目される研究報告

シリーズ 恩師と語らう

活躍する卒業生紹介 “学びの先”

OBOG・教員によるコラム

基金関係のお知らせ

Campus Information

いま
新潟大学の魅力と現在を発信

新潟大学季刊広報誌 [RIKKA]

2017.AUTUMN



NIIGATA UNIVERSITY
MAGAZINE

No.

22

特集

環東アジアから
世界を見据えた
知の拠点”新潟大学“

真の強さを学ぶ。



新潟大學





環東アジア地域を とりまく 社会背景

まず、「環東アジア地域」とは具体的にどのエリアを指す言葉なのだろうか。



環東アジア地域教育研究ネットワーク長
高橋秀樹副学長
(国際、環東アジア構想)

特集 環東アジアから世界を見据えた 知の拠点”新潟大学”

新潟大学の重点戦略のひとつにあげられるのが環東アジア構想だ。世界的に注目を集める地域の研究・人材育成の拠点を目指す本学の取り組みと今後の展望を特集する。

2017.AUTUMN vol.22 CONTENTS

- 03 特集 環東アジアから世界を見据えた
知の拠点“新潟大学”
- 08 授業紹介 -教育の現場-
- 09 Enjoy! 学生ライフ
- 10 注目される研究報告
- 12 シリーズ 恩師と語らう
- 13 活躍する卒業生紹介 “学びの先”
- 14 OBOG・教員によるコラム
- 15 基金関係のお知らせ
- 16 Campus Information

新潟大学SNS公式アカウントが更に充実！

従来のfacebookに加えTwitterとInstagramも公式アカウントがスタート。更に本学の取り組みや普段の様子、フォトジェニックな風景などをお楽しみいただけます。



Cover Photo

五十嵐キャンパス中央図書館沿いの歩道。一面ガラス張りの向こうにはライブラリーギャラリーで友人達との談笑や勉学に勤しむ学生の姿。ギャラリーからは中央道路を行き交う学生達を、四季の表情を見せるキャンパスの自然と共に臨むことができる。

『六花』とは…

本誌のタイトルでもある『六花』とは、本学の校章のモチーフである“雪の結晶”を表す言葉。本学の校章は、シンボルマークであった学生章をモチーフに本学名誉教授 小磯 稔氏がデザインしたものです。

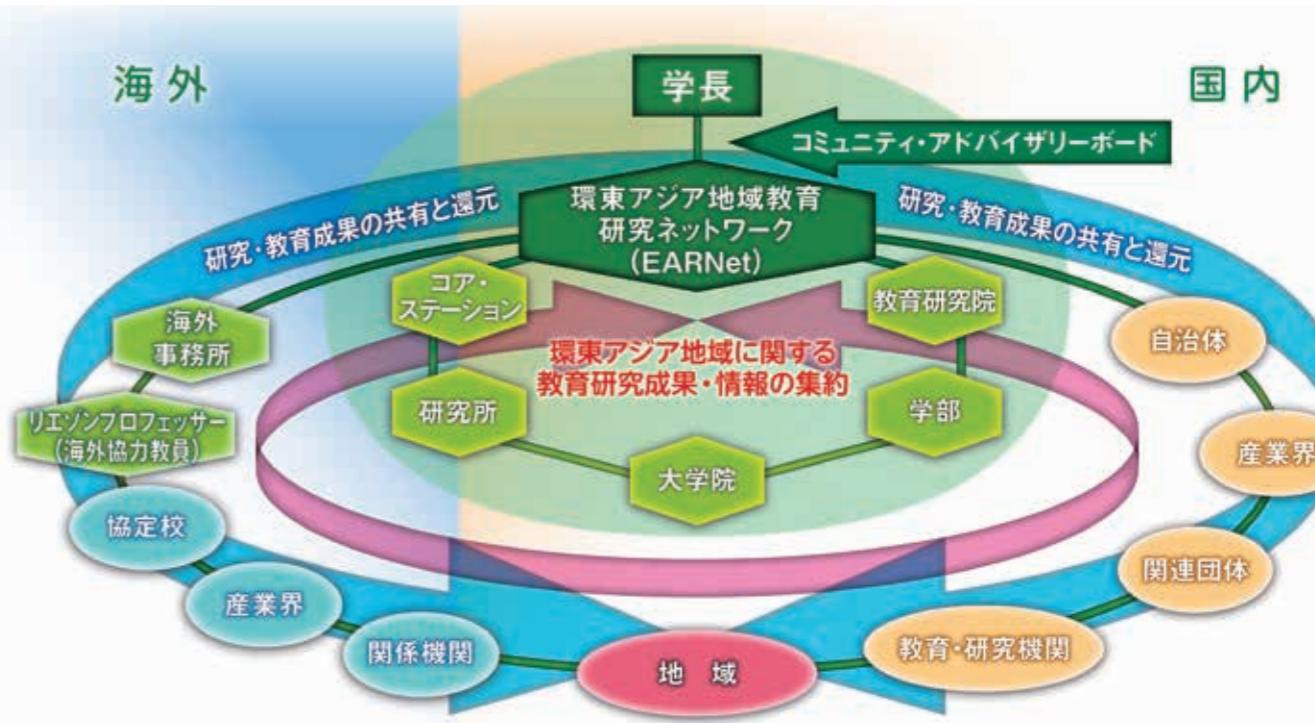




(アーネット) 機構」は、学内外の協働によって環東アジア構想を推進することを目的にしている。

「組織が再編されたことで、新潟大学にはどのような社会貢献資産があるのかを明らかにすることがで、それらの推進がスピードアップでも、非常に将来性の高い発表

がありました。人文社会・教育科学系のアーネット・アーカイブ研究センターは全国的に類を見ないもので、現在では日本を代表する文化として評価されているアーネットの創設期である60～80年代にかけての資料をアーカイブするという取り組みです。これは新潟や日本だけではなく、韓国やシンガポールの研究者が加わり、国際的なチームで進めています」



4年連続採択の快挙“大学の世界展開力強化事業”

国際的に活躍できるグローバル人材の育成と大学教育のグローバル展開力の強化を目指し、高等教育の質の保証を図りながら、日本人学生の海外留学と外国人学生の戦略的受入を行うアジア・米国・欧州等の大学との国際教育連携の取組を支援することを目的として、文部科学省において平成23年度から開始された事業です。平成26年度から4年連続で採択されたことは快挙と言えます。



事業年度	交流の相手国	新潟大学での取組部局	事業名称及び概要
H26～30年度	ロシア	医学部 医学科、 大学院 医歯学総合研究科	『日露の経済・産業発展に資するグローバル医療人材育成フレームワークの構築』 夏期交流プログラムやダブル・ディグリー・プログラムなどにより国際医学への動機を与え、学生が最先端の知識・技術のみならず、農村部や過疎地で必要とされる地域医療や多国籍の患者・医科学家と協調するためのグローバルな視点を身につける。
H27～31年度	トルコ	農学部、 大学院自然科学研究科、 災害・復興科学研究所	『経験・知恵と先端技術の融合による、防災を意識したレジリエントな農学人材養成』 短・中・長期コースを設定し、日本・トルコ両国が持つ経験・知恵と先端技術を、農業・災害復興現場の観察を中心とした特別演習などを通じて学び、農・食・防災・復興の複合的視点の醸成を図る。中・長期コースでは派遣・受入ともインターンシップを実施し、将来のキャリアパスと人的ネットワークの形成につなげる。
H28～32年度	カンボジア ラオス ベトナム タイ	工学部、 大学院自然科学研究科	『メコン諸国と連携した地域協働・ドミニター型融合教育による理工系人材育成』 相手方の大学と、学年縦断・分野横断・多国籍学生チームを結成し、短・中・長期コースで、グループワークに取り組む。インターンシップでは、国によって異なる課題やニーズを地域協働の視点から理解すると共に、異なる社会環境を実体験することで、産業変遷の一貫的プロセスに係る知見の涵養を図る。
H29～33年度	ロシア	全学 (北海道大学が代表機関)	『多様なステークホルダーとの対話を重視する日露経済協力に資する人材育成モデルの日本十極東・シベリアからロシア全域への導入プラン』 日露両国の多様な地域ステークホルダーが協働するコンソーシアムを形成し、日露経済協力プランの8項目に貢献する人材を持続的に育成するプラットフォームを構築する。

「広大な国土を持つロシアでは医療と食料供給に対して東西格差が非常に大きい。極東ロシアに日本の高い技術や優秀な人材を送り込むことで、その格差の是正や地域医療、農業の発展に貢献できると考えています。同時に、ロシア側のメリットだけでなく、日本にとっても世界的に活躍する医療や農業人材の育成につながるという利点があります。医学では農村部や過疎地で必要とされる地域医療を担う人材育成、農学では安全な大豆の生産プロジェクトが進行中です」

また、人材が交流することによって、日本や新潟へのプラス効果も期待できるという。



これまで記述した世界情勢や将来への展望をふまえ、平成29年10月、環東アジア地域における国際交流を活性化するための司令塔機能を担う学長直轄の全学統括体制として、国際連携推進本部を設置した。国際連携推進本部は、新潟大学における国際交流及び国際連携の推進を図るため、海外の教育研究機関との間での学生交流、国際共同研究の推進及び、国際競争的資金の獲得に向け、戦略的な施策を策定。円滑な実施を管理運営する。

その配下にある環東アジア地域教育研究ネットワーク「EARNet

環東アジア地域教育研究ネットワークの概要と今後の展開

新潟大学での役割とは？

「国を越えた人間的な交流や信頼関係が築かれれば、互いの歴史や文化の理解がさらに進みます。

短期的には前述のような役割が期待される一方で、環東アジア拠点構想には中長期的なビジョンもあります。

「他の分野で協力関係を築くための素地になつていくともいえるでしょう。また、優秀な留学生が新潟に定着してくれれば地域の活性化にもつながるはずです。環東アジア諸国との連携は、新潟の地域への還元にもつながっていくと思います」

討することは、他地域が問題に直面した際の大きな助になるはずです

また、複雑化する課題解決には多角的なアプローチが必要だ。総合大学である新潟大学には領域を超えた専門家が集まるため、分野をまたぎ、同時に他大学や企業、行政との連携を進めやすいと考えられる。まさに、さまざまな課題解決手段が集まる知の拠点としての期待を背負っている。このような期待を背負っている。このような学内外のネットワークをさらに広く展開していくことも必要とされている役割だ。

面した際の大きな助になるはずです

■ 環東アジアから世界を見据えた知の拠点“新潟大学”

「新潟大学では、県内地域の産業、金融、行政各機関に参画してもらい、産官学協働による地域の国際化にも対応できる中核人材の養成と地域定着の促進を国内のことだけを考えていればなりません」

「新潟大学では、県内地域の産業、金融、行政各機関に参画してもらい、産官学協働による地域の国際化にも対応できる中核人材の養成と地域定着の促進を国内のことだけを考えていればなりません」

核人材の輩出の両輪によって、県内はもちろん日本海側の広域にわたり地域社会とのプラットフォームの一翼を確実に担い続けるのが新潟大学の使命だ。こうして社会へ成果を還元する力を二層高め、10年先には新潟の地から環東アジア地域へ、環東アジア地域から新潟の地へと双方向の還流を生み出す、一大拠点の形成を目指していく。

「新潟大学は社会貢献システムの確立を重点目標に掲げています。それらは学長直下の組織で取り組むことで、学内外、国内外との連携が進展します。その結果、本学は、海外を含んだ地域社会での存在価値を高めるはずです。社会貢献の形は様々です。企業や行政との連携も大切ですが、大学はそもそもが教育機関です。研究成果が社会に還元されていくことはもちろん、時代に合わせた人材を育成していくなければなりません。グローバル化が進み、瞬時に情報や価値観が更新される世界では、ひとつの分野だけに注目していくは、次なる時代に必要とされる人材がどのようなものなのか分かりません。当然、国内のことだけを考えていれば対応できません」

環東アジア構想について学外の有識者から意見を聞く「リエゾン・プロジェクトエッサー制度（以下LP）」も、国際ネットワーク構想の取り組みを語る上で重要である。

「これは、海外の大学等に勤務している本学の同窓生や、本学の国際交流に貢献している教員・研究者をLPに任命し、更なる国際ネットワークの構築・強化の推進協力

新潟大学のリエゾン・プロフェッサー制度とは



を目的としたものです。本制度の展開により、人的ネットワークを介した学術交流や学生交流が促進されることで、LPの母国において新潟大学ひいては新潟・日本を大きくアピールする機会の増加につながることが期待されます」

LPの活動は、新潟大学海外事務所の運営や、先方大学の窓口としての交渉・調整、学生の留学コースの選定など多岐に渡る。初回である平成28年度には6カ国から10名が選定された。

平成29年1月16日には、選定されたLPを招聘して「新潟大学リエゾン・プロフェッサー・アセンブリー」を開催。新潟大学からは学長、理事をはじめ学内外の教職員、学生ら約50名が参加し、英語により活発な意見交換が行われた。



東アジアから世界へ 知の拠点を 目指して

”海外から見た”新潟大学

現在、新潟大学では、環東アジアに関する全学的な研究センターの新設を進めている。これにより、北東アジアから環東アジア全域へ、文化・歴史・政治・経済・医学・医療・産業技術等のグローバルな課題提起と解決への提言を軸に、多様な「一々に応えられるシンクタンク機能が強化される。

「グローバル化が進んだ世界では、単体地域の研究の深化はもちろんですが、地域をまたがり、国際関係全体を見渡す視点から課題に臨むことが求められていると思います。複数の研究者による取り組みは必須となり、学外者との共同研究が活性化していくものと考えています」

環東アジアから世界全域へと国際連携を活発化させていく中で、平和と発展への寄与には、何より地域に貢献していく姿勢が重要。これらの取り組みの最大の成果として狙うのは、大学院を中心とした人材育成への反映だ。環東アジア地域を基点とした複雑なグローバル環境の中で活躍できる人材の輩出を通じて、地域社会の国際化を担う中核人材の増加に貢献できる。

リエゾン・プロフェッサーの視点

一年経った今日でも、高橋姿学長から新潟大学リエゾン・プロフェッサーの証書を恐縮し震えた両手で頂いた時の気持ちが忘れられません。それは、卒業生としてこれ以上無く光栄であったことはもちろん、環東アジアの知の拠点と称される母校新潟大学の著しい発展による誇りと、グローバリゼーション時代における母校の輝かしい未来への期待によるものでした。

博士課程在学時代、新潟大学院生協議会会長を務めたのは、最も印象深い思い出の一つです。世界各地から集まってきた留学生の中で人数の多かったのは中国、韓国、台湾およびモンゴルです。日本語は皆の共通語ですので、顔などだけでは国と民族とが判断できません。恐らく自分には、その時から「環東アジア地域」と言う意識が芽生えたのです。今「ワンアジア」という概念も流行していますが、環東アジアと言うときの親近感と一体感には特別なことがあります。環東アジアを中心に据えた新潟大学は、国と地域を越えて、今までこれからも更に知的コミュニケーションの舞台としてその歴史的、現実的人間教育の役割を果たしていくのではないかでしょうか。

自分が今勤務する中国の華中師範大学から、新潟大学に半年から一年以上留学した学生は近年だけでも187人おります。こうした留学経験のある学生はより良い進学と就職ができ、東アジアあるいは全世界の色々な分野で活躍しています。

このように地理的、知的、未来的、グローバルに優れた新潟大学は益々世界の注目を集め、時代に適応する人材を育成するプラットフォームになっていくと固く信じております。



李俄憲

中国・華中師範大学
外国语学院教授 日本語学科長
2001年3月 新潟大学大学院
現代社会文化研究科修了(文学博士)

新潟大学が誇るリソース紹介

アニメの制作過程の資料を保管・分析する アニメ・アーカイブ研究センター

国際的にも学術研究対象として高く評価され、注目を集めている日本のアニメ。その制作資料の入手・整理・分析を通してアーカイブ化を進めながら、アニメの制作過程について実証的かつ理論的な研究が可能な国際的アニメ研究拠点を目指している。中心となり事業を担当するのは人文学部のキム・ジュニアン准教授と石田美紀准教授。アニメ作品が撮影に至るまでには、絵コンテ、キャラクター設定、原画などの数多くの素材が必要。これらは、制作プロセスを示す重要な一次資料であり、作品を見ているだけでは分からない生々しい試行錯誤が垣間見える。しかし、制作現場では資料の保管に苦渋しており、これらの一次資料が散逸の危機に晒されている。それらの資料を入手・整理・デジタル化し保全することで、日本のポビュラーカルチャーにおいて重要な一翼を担ってきたアニメのアーカイブ化を行い、国内・国外研究者に閲覧可能な研究拠点として整備することが目的だ。アニメには国や文化、政治的な緊張を越える力がある。非常に先進的な取り組みであり、すでに海外からの留学希望者からの問い合わせも多く寄せられている。また、研究チームには韓国やシンガポール出身者もあり、まさに環東アジア構想を象徴する取り組みといえる。



平成29年10月21日(土)に開催されたシンポジウムでは、石田美紀准教授が講演。「新潟で、大学で、アニメ中間素材をアーカイブすること」と題し、発表を行った



人文学部
キム・ジュニアン 准教授 石田美紀 准教授

環東アジア地域教育研究ネットワーク設置記念シンポジウムを開催



10月21日(土)にアートホテル新潟駅前にて「環東アジア地域教育研究ネットワーク」設置記念シンポジウムを開催し、本学関係者や一般の方々を含む100人余りが参加しました。

本シンポジウムでは、「東アジアの発展に向けて日本の国立大学に期待される役割」と題して、大学共同利用機関法人人間文化研究機構の小長谷有紀理事からご講演をいただきました。続いて、人文社会・教育科学系・自然科学系及び医歯学系の実績・活動状況について報告がなされた後、学外からお招きした5人のパネリストによるパネルディスカッションを行いました。パネルディスカッションでは、報告された三学系の活動について、本学との連携と協力という観点から、今後の展望、方向性について議論が行われました。

注目される研究報告

新潟大学では、伝統的な学問分野を継承するとともに、専門分野を超えて連携し合つ研究や、先端的な研究など、真理探求や社会の発展に貢献する研究を行っています。



自然科学系(理学部)
サティッシュ・クマール 教授

| Profile | 博士(理学)。専門は岩石学、同位体地質学。地球深部炭素循環の解明を目指し、研究を進める。

研究課題 地球の核に隠れている炭素

地球内部の長期的な炭素循環モデルを解き明かす

日本の学術水準の向上・強化につながる「新学術領域」として、文部科学省から採択された研究プロジェクト「核—マントルの相互作用と共に進化～総合的地球深部科学の創成～」。この壮大なテーマに向かって国内外の研究者グループが、多角的なアプローチを行っている。本学からは理学部のサティッシュ教授がプロジェクトに参加。インド出身の教授は1994年に日本に渡り、2012年に本学に着任。

印度や南極での調査、大陸地殼部における岩石と流体の相互作用や炭素同位体の研究をいかして、地球深部の核とマントルの間で起こっている長期的な炭素循環モデルについて調べている。

「地球深部は宇宙同様に人類にとって未知の領域。しかし、現在の技術ではマントルまで穴を掘り、試料を直接入手することはできません。そのため火成活動などによって地表まで運ばれた岩石を調べたり、高圧実験で地球内部を想定した環

境を作ることで、地球内部を理解しようとしています。私は炭素の安定同位体に注目して研究を行っています」

宝石として知られるダイヤモンドもマントルに由来する貴重な試料。そこに包まれている炭素同位体の割合を調べることで、物質の移動や起源・由来を追跡することができる。最新の研究では深さ1,000キロメートルに由来するものも見つかっている。

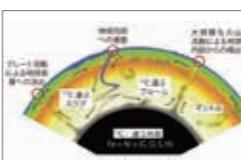
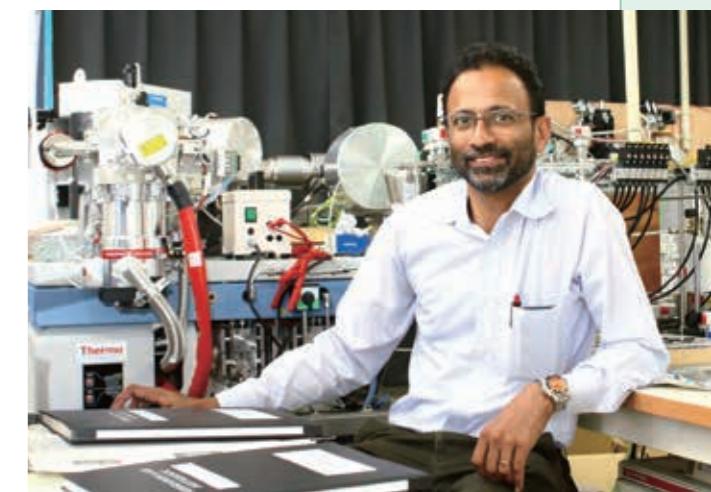
「私たちはマントルだけでなく、核にも炭素が含まれる可能性があるのではないかと考えています。炭素の動きを調べることによって地球の超深部で起こっていることを解き明かすのです」

サティッシュ教授の研究が明らかになった場合、私たちはどのような知識を得るこ

とができるのか。

「仮に地球規模の火山活動が起こった場合、炭素が地球の核にあれば大気中の二酸化炭素の量が急激に増えるはずです。その結果、地球の環境にはどういう影響があるのか。恐竜の絶滅は隕石衝突だけでなく、様々な環境の急激な変化があったと考えられていますが、その要因に迫れるかもしれません」

地球スケールの探求を進める教授の研究はロマンを感じさせてくれる。



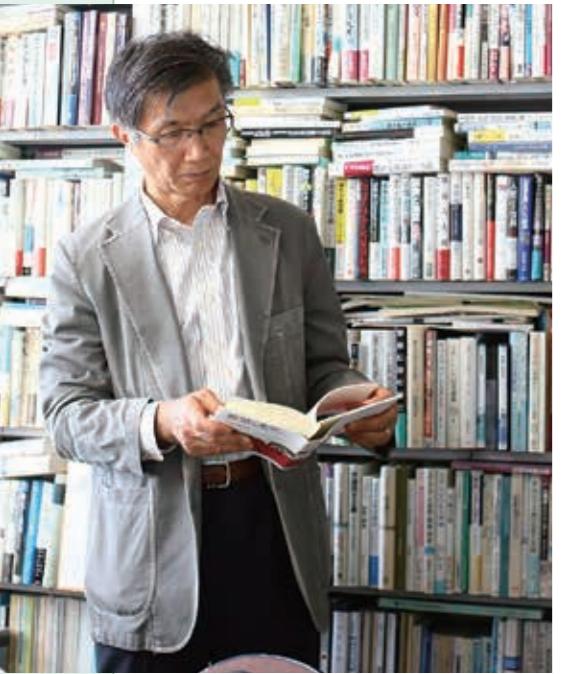
人文社会・教育科学系(人文学部)
渡邊 登 教授

| Profile | 修士(社会学)。専門は地域社会学、環境社会学。地域社会における住民自治の問題を取り組む。

研究課題

『ポストフクイチ社会』に向けた原発立地県における地域公共圈構築についての研究

ポスト「原発依存」社会の地域公共圈構築の可能性を検討する



「ポストフクイチ社会」とは2011年3月11日に起きた東日本大震災および福島第1原発事故以降を示す。核と持続可能な地域社会の問題は、現在そして今後の私たちが直面するテーマだ。国は原発維持と脱原発で揺れ、日本社会のエネルギー政策は変容している。渡邊教授は、自主管理の住民投票で原発計画を断念させた新潟県旧巻町と、核廃棄物処理場計画を撤回させた韓国住民運動の調査・研究を経て、ポスト「原発依存」社会に向けた地域公共圈構築の可能性を検討する。

「原発を選択するかどうかはエネルギー選択だけでなく、どのような社会システムを選択するかという問いです。福島第1原発と同様に東京電力の原発が存在する新潟県柏崎刈羽では、2002年のトラブル隠しを契機に他地域ではない独自の監視システムを作り上げました。それが市民を主体にする『柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会』です。これは推進派・反対派を含めた住民の原発に関する東京電力の監視・経済産業省へ提言の場として設けられました。例えば、福島では立地市町村と推進派だけの集まりしか存在しませんでした。さまざまな立ち場の住民によって構成されているという点で他に類例がありません。多様な立場の市民が柏崎市の現状を見据えた上で討論を交わせる場があること、そこで将来の地域社会を構想する可能性を高めていくという認識に至っているのは注目すべきことです」

また、再生可能エネルギーも地域自治や住民自治と親和性が高い。新潟市では市民主体の再生可能エネルギーへの取り組みがある。「おらってにいがた市民エネルギー協議会」は新潟市とパートナーシップを締結し、太陽光発電の事業を進めている。

「これも市民が主体的にエネルギーをコントロールするという取り組みです。原発立地県として『ポストフクイチ』の社会選択に繋がる道筋を考えること。それがまさに新潟県には問われていると思います。



著書「『核』と対峙する地域社会—巻町から柏崎刈羽、そして韓国へ」。原発を争点とした地域社会の問題についてまとめた

そのモデルを作ることは全国的に大きな意味を持ちます。そこでは立場を越えてお互いを認め合い、合意形成ができる可能性があるかもしれません。新潟県には確かに住民の力が息づいています。現状分析をふまえ、その芽がどのように出てくるのかを見極めなければならないと考えています」



↑市民による自然エネルギーの発電事業を推進する「おらってにいがた市民エネルギー協議会」。その動向にも注目している。写真は総会と新潟市西区の黒崎市民会館のおらって第一号発電所

企業の技術向上を目指す産学官交流ネットワーク

新潟大学産学連携協力会

新潟大学地域創生推進機構と産業界等が密接に連携し、産業の活性化、高度化、地域社会の発展を目的に技術の向上及び地域連携を図ります。

詳細をお知りになりたい方、加入ご希望の方は、ホームページをご覧ください。

お問い合わせ先 新潟大学産学連携協力会(新潟大学地域創生推進機構内) TEL 025-262-7553 FAX 025-262-7577 Email unico@cer.niigata-u.ac.jp

新潟大学附属図書館

学術書・専門書多数。地域に開かれた明るく開放的な図書館です。

卒業生・一般の皆様もお気軽にご利用ください!

貸出用の図書館利用カード作成できます

■貸出期間 2週間

■貸出冊数 新潟大学カード会員: 図書 10 冊

卒業生: 図書 5 冊

一般の方*: 図書 5 冊 *新潟県内在住 18 歳以上の方が対象

開館時間: 平日 8:00 ~ 22:00
土・日・祝日 10:00 ~ 22:00

*※学生休業期間については開館時間を短縮します。

*※本学の定期試験期間中は、閲覧席利用をお控えください。

休館日: 年末年始等

開館スケジュールや利用方法は附属図書館ホームページをご覧ください。

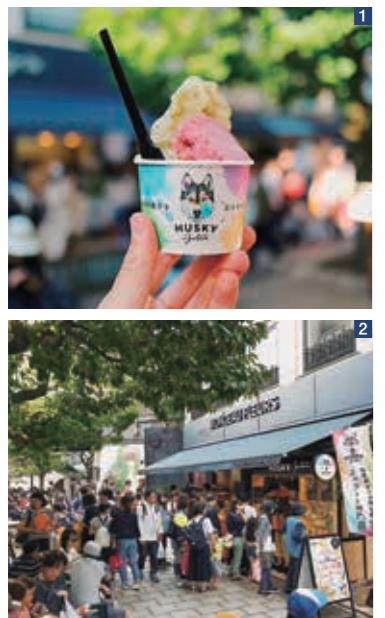
新潟大学附属図書館 検索

お問い合わせ先

新潟大学中央図書館 情報サービス係 TEL 025-262-6221 / FAX 025-264-2218 ホームページ http://www.lib.niigata-u.ac.jp/

11 NIIGATA UNIVERSITY

NIIGATA UNIVERSITY 10



1 ハスキー・ジェラートは、東京都で戸越店と自由が丘店の2つの直営店舗を構えている。ロゴデザインはイナムラさんが担当する

2 ハスキー・ジェラートは、東京都で戸越店と自由が丘店の2つの直営店舗を構えている。ロゴデザインはイナムラさんが担当する

3 ハスキー・ジェラートは、東京都で戸越店と自由が丘店の2つの直営店舗を構えている。ロゴデザインはイナムラさんが担当する

Information

株式会社ロストアンドファウンド
<http://www.laf-inc.com/>
ハスキー・ジェラート
<http://huskygelato.com/>
イナムラ・シンヤオフィシャルサイト
<http://shinyainamura.com/>



生産者のストーリーを届け、農業を活性化する

「デザインが新しい仕事を作る」

新潟大学で「真の強さ」を学び、社会で活躍する卒業生をご紹介します。

新潟大学で「真の強さ」を学び、社会で活躍する卒業生をご紹介します。

新潟大学で「真の強さ」を学び、社会で活躍する卒業生をご紹介します。

新潟大学で「真の強さ」を学び、社会で活躍する卒業生をご紹介します。

新潟大学で「真の強さ」を学び、社会で活躍する卒業生をご紹介します。

新潟大学で「真の強さ」を学び、社会で活躍する卒業生をご紹介します。



3 新潟県で「FARM TABLE SUZU」「SU ZUDELI」などのレストランを運営するSUZU GROUPのオリジナルブランド「SHO SUZU KI」のブランディングを手がけた

卒業生と母校との絆、ポケットに「新潟大学カード」入会受付中!

新潟大学全学同窓会では、新潟大学の発展を支援し、学部間の枠を超えた同窓会員へのサービスと連携を深める目的で、三菱UFJニコスと提携してクレジット機能付きVISA国際カード「新潟大学カード」を発行しています。

新潟大学カードに関するお問い合わせ先
新潟大学全学同窓会事務局
電話:025-262-7891
(受付時間 平日10:00~15:00)
E-mail:n-doso@adm.niigata-u.ac.jp



恩師: 滝澤かほる 名誉教授 元・新潟大学教育学部教授 教え子: 小野沢謙一さん 滝澤訓さん

滝澤 彼らは私の研究室の同期の学生で、現在は新潟の教育界で活躍している優秀なふたりです。当時は個性豊かな人たちが互いに切磋琢磨しながら、自分らしい生き方を貫いていた時代。ふたりもまさにそういう学生さんでした。

滝澤 滝澤研究室には特にそういう雰囲気がありましたよ。印象に残る先輩がたくさんいました。

小野沢 非常に居心地のいい場所でした。先生はご自宅に学生を招いて夕食会を開いてくださいましたね?

滝澤 学生の様子を見るには食べ物で釣るのが一番(笑)。みんなちゃんと勉強しているかなって。

小野沢 体育科はみんな真面目でしたよ。先輩が厳しくてサボるなんてできなかった(苦笑)。

滝澤 先生は当時からリズム体操部の顧問として熱心に取り組まれていましたね。

小野沢 そうそう。年に一回、体操の発表会があつて。

滝澤 私たちはそこで車のタイヤを使ったオリジナルの体操をしたんです。これが、お笑いのようなもので(苦笑)。

小野沢 曲は少年隊の『仮面舞踏会』だったね。体操のタイトルが『タイヤでリタイヤ』。タイヤが重くて演技が終わるとヘトヘトになるからって(苦笑)。

滝澤 あれは個性的で、とてもよかったですよ(笑)。

小野沢 当時を振り返ると先生は

たんですね。周りと比べ過ぎず、それぞれのレベルで取り組むことも大事なんだ。

小野沢 確かに「こうしなさい」と指導されたことは一度もなかつたね。



シリーズ vol.2 恩師と語らう

師弟で懐かしむ当時の新潟大学



柔軟な方だったんだなと感じます。私がサッカー部のレギュラーになれない頃、「他人と比べることはない。新大のレギュラーも他校ではありません」。新大のレギュラーも他校ではありません。よい距離感を保つて、では補欠かもしれないよ」と言つてくださいました。それで気が楽になつてくださいました。

滝澤 自分たちが管理職になつてみて、先生の学生への接し方はなれない頃、「他人と比べることはない。新大のレギュラーも他校ではありません」。新大のレギュラーも他校ではありません。よい距離感を保つて、見守りながら良いところを伸ばしてあげることが大事なんですね。

滝澤 文部省講習会の発表者として抜擢された時ですね。卒業後での仕事まで見せてもらえるのは教育者として嬉しいことです。

滝澤 私も研究会で授業を見て、翌日お札を言うとか。「当たり前」を身に付けてもらったことは、社会人1年目のときからとても役に立ったと思います。

13 NIIGATA UNIVERSITY 12 NIIGATA UNIVERSITY

滝澤 先生から学んだのは「当たり前」の大切さ。ごちそうになら、翌日お札を言うとか。「当たり前」を身に付けてもらったことは、社会人1年目のときからとても役に立ったと思います。

小野沢 私も1年目に「他の先生より仕事ができないのは当然なんだから、朝早く行つてテーブルを拭いてお茶を淹れたら」と言わされました。実際やつてみるとすごく褒められたんです。「自分のできることと人のためにできることは何か」を考えることの大切さを教わっていたのかなと思います。

滝澤 次はふたりが若い世代にいろんなことを教える番ですよ。若手が活躍できるように、柔軟な頭で育てていってください。



たきざわかほる
滝澤かほる
名誉教授

修士(体育学)、東京教育大学卒業。専門は体育科教育。昭和54年から新潟大学教育学部高田分校で教鞭をとる。昭和56年には教育学部の統合移転により五十嵐キャンパスで勤務。平成25年3月の退職まで長きに渡り、体操を通して新潟県の教員界に貢献してきた。



たきざわさとし
滝澤訓さん
新潟市総合教育センター
副参事・指導主事

昭和63年3月、新潟大学教育学部小学校教員養成課程卒業。現在は胎内市立中条小学校の教頭として勤務。日々、小学校教育の最前線に立ち、教員や子どもたちと触れ合い活動している。



おのさわけいんいち
小野沢謙一さん
胎内市立中条小学校 教頭

昭和63年3月、新潟大学教育学部小学校教員養成課程卒業。現在は胎内市立中条小学校の教頭として勤務。日々、小学校教育の最前線に立ち、教員や子どもたちと触れ合い活動している。

ー学生の輝く未来と共に創るー 基金関係のお知らせ

地域の中核を担い国際社会で活躍する人材を輩出するため、
「学生の修学支援」「国際交流」「教育施設整備」の推進を目指しています。

新潟大学まなび応援基金

経済的理由により修学が困難な学生に対する修学支援のための事業に限定して、ご寄附をお願いしております。平成28年税制改正により、上記の使途に限定した寄附に係る個人寄附者は、「税額控除」と「所得控除」のどちらかを選択することが可能となったことに伴い28年11月から募金活動を開始しました。

寄附目的と 支援事業

- 右記事業のうちから支援の必要性の高い事業に
活用させていただくこととし、寄附者が支援事業
を指定することはできません。

- 入学料、授業料又は寄宿料の全部又は一部を免除する事業
- 学資金を貸与又は給付する事業
- 学生の海外への留学に係る費用を負担する事業
- TAやRAの業務を行う学生に対する手当等を負担する事業

平成29年度においては、「輝け未来!!新潟大学入学応援奨学金」及び「新潟大学修学応援特別奨学金」に支援を行います。

■寄附者名簿 (H29.5~H29.8寄附入金分) ≈50音順 敬称略

〈個人〉 川井 洋一 小林 義夫 佐藤 純一 澤居 平夫 鈴木 明夫 高杉 浩文 高橋 姿 田代 文俊 古川原 誠 吉田 昭治 米川 宏一 匿名希望者 5名

新潟大学基金

「新潟大学基金」は、「新潟大学まなび応援基金」で行う事業以外の、全ての事業を推進するためご寄附をお願いしております。寄附者が教育活動の支援、学生の修学支援、研究活動の支援、キャンパス等施設整備の支援、病院運営の支援、大学全体の支援など寄附目的を指定することができます。

■寄附者名簿 (H29.5~H29.8寄附入金分) ≈50音順 敬称略

〈個人〉 宇土澤 光徳 小野 秀平 柏木 道子 片平 邦昭 加藤 健一
北島 蒼田 小林 義夫 小山 重人 酒井 邦夫 芝田 正 柴田 大
下越 典彦 鈴木 保 高野 俊郎 高橋 堅太郎 横 重雄 嶺所 三十鈴
畠山 貴明 藤田 修一 古川原 誠 三島 逸雄 森 正勝 矢口 健二
吉塚 康一 米川 宏一 渡部 啓温 匿名希望者 16名

■トピックス

7月5日(水)に輝け未来!!奨学金懇談会を開催しました。本制度は、大学進学を希望しながら、学業優秀であるが経済的理由により進学を断念せざるを得ない高校生に対して、入学時に必要となる学資の一部を奨学金として給付するものです。



新潟大学サポーター倶楽部

継続して新潟大学を支援するため、倶楽部年会費の全額を「新潟大学基金」に寄附することとし、平成28年3月に設立しました。企業・団体を中心に入会をお願いしております。また、会員への情報発信により、新潟大学と会員及び地域社会との連携と発展を目指しています。



■トピックス

11月6日(月)、平成29年度報告会・情報交換会を開催し、会員、教職員、学生の計106名が参加しました。会員、大学からの報告に加え、倶楽部の支援を基に実施している奨学金の受給学生からの活動報告も行われるなど、活発な交流の場となりました。

新潟大学古本募金

新潟大学古本募金は、皆様から読み終えた本・DVD等をご提供いただくと、その査定額が新潟大学に寄附される取組です。寄附金は学生の修学支援をはじめとした事業に役立てられ、平成29年2月から募金活動を開始しました。

★学内(図書館、総合教育研究棟、第1学生食堂、大学会館他)に設置された回収ボックスに入れる。

★5点以上を段ボール箱に入れ、取り扱い業者に電話(嵯峨野(株)TEL:0120-29-7000)で回収を依頼する。(詳しくは、パンフレットを参照してください。)

■寄附者名簿 (H29.3~H29.5寄附入金分) ≈50音順 敬称略

〈個人〉 安藤 淳一 飯野 勝栄 石川 和子 伊東 由紀子 稲葉 治久 ウエキ トワイチ 内田 正夫 川瀬 芳夫 北村 敏春 木村 邦彦 佐藤 隆 澤田 公和 實川 美穂 菅原 美桜 関根 理 寒川 美樹 照光 真 都丸 恵奈子 野住 素広 花田 晃治 藤原 明 牧野 真貴子 松本 保 宮下 裕芳 毛利 祐三 吉川 恵次 渡邊 卓 匿名希望者 6名

〈団体〉 にいがた環境プロジェクトROLE

問合せ先 新潟大学サポーター連携推進室 [TEL]025-262-5651・6010 [e-mail]kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp [HP]http://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/

読み終えた本が募金となって
学生の修学支援などに役立てられます

「新潟大学に寄附したい」とお伝えください

お申込み

新潟大学古本募金



0120-29-7000

(受付)
9~18時

企画 新潟大学サポーター連携推進室
TEL. 025-262-5651, 6010

真の強さを学ぶ。
新潟大学

(運営) 嵐峨野株式会社 〒358-0053 埼玉県入間市仏子 916 埼玉県公安委員会 古物商許可証 第431100028608号

今回のテーマ 『これから必要な力=ポジティブな発信力』

新潟大学OG
山田彩乃の隔号連載コラム

“輝く女性”研究所

新潟大学教育学部卒業。
2015Miss Earth Japan
(日本代表)したみちオフィス株式会社 芸能事業部代表。
レギュラー番組 NST「八千代コースター」毎週土曜日10:25~放送、BSNラジオ「マエカナカシズカ」。
その他、ウォーキングレッスン講師、講演会等も行って
いる。



2
015年12月、2015MISS EA RTH JAPANとして世界大会に出場してきました。普段はフィリピンでの開催ですが、15周年を記念してオーストリア・ウィーンで開催。約90ヵ国もの国が参加し、1ヶ月ほどビューティートレーニング期間を経て、世界大会本番を迎えます。前回のコラムでも書いた通り約1ヶ月生活をする部屋は4人でひと部屋、2人でひとつベッド、もちろんシャワールームもひとつなので4人で奪い合いながら(笑)の共同生活。大会当日までは毎日ナショナルコスチュームや水着、ドレスのコンテスト、環境問題の講義やディスカッションも行いました。そんな大会中に感じた日本と世界の大きな違いが幾つかありました。一番驚いたのは世界のミスの方々の発信力です。SNSでたくさん的人が見ているとかそういうことではなくて、自分がいいと思つたものを自信を持って発信するのが映つたのは世界のミスの方々の発信力です。SNSでたくさん的人が見ているとかそういうことではなくて、自分がいいと思つたものを自信を持って発信する力がすごいのです。日本ではなかなか無いですね。日本人にはこういった思い切った発信をする力、また、自分がいいと思ったものは良いと自信を持って発信すること、それを素直に受け入れられる力が足りないと痛感しました。

自分がいいと思うものを、他人がどう思つて、今後日本で活動していく上でも非常に大切な部分だと感じました。こうした発信力を日本人がもっともっと身につけていけば日本の魅力は更に拡散されるとます。これをまずは新潟から伝えたいと思っています。逆に日本人の良いところは、繊細な気配りが出来るところだと海外での生活をして感じました。様々なお店でのサービスはもちろん、共同生活をしていても、細かい気配りで相手を優先させている日本人の心意気は当たり前ではなく、日本の良いところなのです。実感しました。

COLUMN ◇ 新潟大学教員によるコラム “知見と生活のあいだ”

本学教員がそれぞれの専門領域と日常の接点を題材に、日々の生活に通じる理論やアイディアを綴るリレー式コラム。第5回は歯学部です。

第5回●歯学部 『酒は百薬の長』を科学する

酒

は百薬の長。私たちはこの

ドラマをサイエンスしていく

最中です。どうもまいかない、心が折れそう、私たちは日々、ストレスという得体のしれない輩

にさらされています。ストレスは

時に知らない間に体を蝕み、不具合を起こします。普段はどうといふこともないのに、ストレスがたまつて遭遇する頸関節症、舌痛症といった慢性疼痛疾患の発生にはストレスが大いに関係します。よつてストレスを放置してよいことはありません。だとすればストレスを和らげるにはどうしたらいいのでしょうか?

まず、私たちは『ニイガタのチカラ』を提案します。私たちが誇る世界一のコメと水が織りなす越の輝き! 日常に潤いをもたらすした発信力を日本人がもつともっと身につけていけば日本の魅力は更に拡散されるとます。これをまずは新潟から伝えたいと思っています。

古来、酒は百薬の長と言わわれます。適度なお酒は、ストレスを発散させてくれます。とは言っても、お酒がどうやってストレスと歯科的な痛みを改善するのでしょうか? 十分にはわかっていないのが現実です。私たちはこの課題を解決するため『ニイガタの地酒』に目をつけました。そしてニイガタ地酒パワーをおすすめします。

古来、酒は百薬の長と言わわれます。適度なお酒は、ストレスを発散させてくれます。とは言っても、お酒がどうやってストレスと歯科的な痛みを改善するのでしょうか? 十分にはわかっていないのが現実です。私たちはこの課題を解決するため『ニイガタの地酒』に目をつけました。そしてニイガタ地酒パワーをおすすめします。しかし程を効果的な一手となる、そんなニイガタ地酒パワーをおすすめします。

古来、酒は百薬の長と言わ

われるといふべきです。

しかし程を効果的に改善する

方法

を

か

ら

の

杯

で満たされた深闇が脳の緊張を癒します。何より美味しい! という

自分への褒美が、やる気の源を醸す

あります。尼イガタのチカラ

の明日を『ワセイ』するコラムであります。尼イガタのチカラ

の長と言つても度が過ぎれば万病の

もとですから、間合いは大切です。

いい塩梅なお酒からの『ジリ』は

個々の『ワセイ』を調和させ、美

の長と言つても度が過ぎれば万病の

もとですから、間合いは大切です。

いい塩梅なお酒からの『ジリ』は

個々

Campus Information

地域に密着しながら様々な活動を続ける新潟大学。皆さんにお伝えしたいニュースはたくさんあります。

死因究明教育センター設置記念行事を開催しました



本学大学院医歯学総合研究科に死因究明教育センターを設置したことを記念して、9月25日(月)に新潟医療人育成センターにおいて、記念講演会・記念式典を開催しました。

死因究明教育センターは、新潟県内外の大学との連携、新潟県警察刑事部科学捜査研究所、新潟県医師会、新潟県歯科医師会、地域基幹病院等と緊密に連携して、新潟県のみならず、環日本海ラインにおけるコアセンター、さらに本邦における法医学人材養成の中核施設を目指し設置されました。

記念講演会では、文部科学省高等教育局医学教育課課長補佐の黒澤修身様が「医学・歯学教育の現状と課題」と題し、医学・歯学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂や死因究明等を担う人材養成、教育及び研究拠点の整備に係る主な取組みについて講演されました。福岡大学医学部法医学教室教授(日本法学会 前理事)の久保真一様、長崎大学医学部法医学分野教授の池松和哉様からもそれぞれ現状報告や将来展望が語られました。

記念式典では、祝辞をいただいた後、死因究明教育センター長の高塚尚和教授が、法医学を取り巻く社会的課題や新潟県における死因究明の現状などを示し、センター開設の目的や概要、期待される効果について説明しました。

法と技術シンポジウム「人工知能(AI)による自動走行と社会」を開催しました

本学法学部は、理化学研究所革新知能統合研究センター、新潟県とともに9月18日(月・祝)に朱鷺メッセ・新潟コンベンションセンターにて、法と技術シンポジウム「人工知能(AI)による自動走行と社会」を開催し、高校生や大学生、一般の方などを含む約120人にご参加いただきました。

飛躍的な進歩が見込まれるAI関連技術の応用例として現在もっとも注目を集めている自動走行車について、普及の障害となる課題を法的な側面からもどのように解決していくべきかというテーマで講演とそれに基づくディスカッションを行いました。理化学研究所革新知能統合研究センター(AIP) 社会における人工知能研究グループリーダーである東京大学の中川裕志教授による基調講演の後、KDDI総合研究所の加藤尚徳氏が「AIにおける自動走行の現在と未来」と題する報告、最後に本学法学部の橋口祐介講師から「AIによる自動走行と民事責任」と題された報告を行いました。

その後、本学法学部の鈴木正朝教授を司会者に「AIによる自動走行と社会～自動車から他動車～」と題して行われたパネルディスカッションでは、米山隆一新潟県知事も参加し、行政、法律学、技術と、多角的な視点から討論が交わされました。



平成29年度新潟大学・新潟大学全学同窓会交流会を開催しました。



10月29日(日)に ANAクラウンプラザホテルにおいて、平成29年度新潟大学・新潟大学全学同窓会交流会を開催しました。この交流会は、本学と全学同窓会との交流を深め、更なる連携へ繋げる機会として毎年開催しており、同窓会員や本学教職員など約230名が参加しました。

開会では高橋姿学長が、教育・研究・社会貢献における特色ある取組みや、学生の活躍などを報告し、新潟大学の更なる発展のために、全学同窓会と今後も連携を深めていきたいとの挨拶がありました。記念講演では、瀬田クリニック東京院長の後藤重則氏(本学医学部卒業)が、「がん治療を大きく変貌させる免疫療法の現状と今後」と題し、がん細胞を攻撃する免疫という体の機能を使う治療である免疫療法を紹介しながら、がん治療の最前線をわかりやすく解説しました。